

土佐山田町埋蔵文化財報告書第15集

高知県香美郡土佐山田町

# 林田シタノヂ遺跡II

(農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

1993・3

土佐山田町教育委員会

# 林田シタノヂ遺跡II

1993・3

土佐山田町教育委員会



縄文後期土器

# 序

「水と緑」の風土に恵まれた土佐山田町は、古来、幾千もの歳月を経た文化遺産が数多く存在しています。しかしながら、近年の諸開発事業の増加は、おびただしい数の発掘調査を生み出し、貴重な文化財が失なわれつつあります。

このたび発掘調査された林田シタノヂ遺跡は物部川左岸の河岸段丘に位置しています。本遺跡からは縄文後期、晩期の遺物が発見され、土佐山田町の原始社会の解明に資するのみならず高知平野の弥生社会の成立を理解するうえで重要な遺跡であることがわかりました。

今回、調査成果を報告書として刊行する運びとなりました。本書の刊行におきまして、文化財の保護、保存、活用の一助となれば、幸甚に存じます。

最後に、発掘調査を実施するにあたり、調査を担当していただいた(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、門脇隆主任調査員、山崎正明調査員を始め、御協力いただいた高知県教育委員会、(財)高知県文化財団、土佐山田町林田・山田島土地改良区など、多くの関係者に対し深く感謝を申し上げます。

平成5年3月

土佐山田町教育委員会

教育長 岡本章博

## 例　言

1. 本書は、土佐山田町林田・山田島地区における農村基盤整備事業に伴う、林田シタノヂ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 林田シタノヂ遺跡の所在地は、高知県香美郡土佐山田町林田字シタノヂである。
3. 発掘調査は、平成4年3月2日～3月24日、平成4年9月17日～11月9日に実施した。調査面積は2,546m<sup>2</sup>である。
4. 発掘調査は、高知県教育委員会の指導のもと土佐山田町教育委員会が主体となり実施した。調査及び整理作業は、平成3年度分については中山泰弘（土佐山田町教育委員会社会教育課主事）が担当した。平成4年度分については調査I・II区を山崎正明（高知県埋蔵文化財センター調査員）が、調査III区を門脇隆（高知県埋蔵文化財センター主任調査員）がそれぞれ担当した。
5. 本書の執筆・編集等は、山崎正明が行った。尚、平成3年度分・平成4年度分調査III区に関しては別途報告を行なう。
6. 報告書に掲載の縮尺率は、それぞれに示した。高度値は海拔高であり、方位は磁北である。
7. 遺構についてはP（ピット状遺構）、SK（土坑状遺構）、SD（溝状遺構）で標示した。
8. 出土遺物の写真図版中の番号については、実測図の番号と一致している。
9. 報告書作成にあたっては、出原恵三氏にご協力・助言・教示を得た。  
又、前田光雄氏、松村信博氏、菊地直樹氏や埋蔵文化財センターの各調査員の方々から御協力・教示を得た。記して深く感謝の意を表したい。
10. 発掘調査全盤にあたっては、土佐山田町をはじめ土佐山田町林田・山田島土地改良区、地元林田シタノヂ地区の皆様方に種々御協力・御援助を頂いた。関係各位に厚くお礼申し上げます。
11. 発掘調査及び遺物整理には下記の方々のご協力を頂いた。（順不同・敬称略）  
発掘作業…………佐々木龍男・小松一仁・池宣宏・竹村幸宏・吉川徳子・中沢英子・岩瀬好子・山下アツコ・山崎政子・武内環・藤村清子・井上静衛・門田安代・山中美代子・宮本幸子  
整理作業…………松木富子・山中美代子・宮本幸子・井上博恵・白木由里・門田美和子・竹村延子・矢野雅・宮地佐枝・川村亜矢、その他多くの埋蔵文化財センター整理作業の方々にご教示・ご協力を頂いた。
12. 当遺跡出土資料は、土佐山田町教育委員会が保管している。  
遺跡の略号は92-20Y Gである。

## 報告書要約

1. 遺跡名 林田シタノヂ遺跡 遺跡番号 190180 遺跡地図 香美・長岡ブロック  
No.15
2. 所在地 高知県香美郡土佐山田町林田字シタノヂ
3. 立地 物部川左岸の洪積台地上 標高約60m
4. 種類 繩文・弥生時代・古代・中世・近世
5. 調査主体 土佐山田町教育委員会
6. 調査契機 農村基盤総合整備事業（圃場整備）
7. 調査期間 平成3年度分 平成4年3月2日～3月24日  
平成4年度分 平成4年9月17日～11月9日
8. 調査面積 平成3年度分196m<sup>2</sup>, 平成4年度分2,350m<sup>2</sup>
9. 検出遺構 (縄文時代) P 5基  
(弥生時代) P 2基, SD 1基, SK 5基  
(時期不明) P 6基, SD 1基 (調査I・II区)
10. 出土遺物 縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・綠釉陶器・黒色土器・土鏡・石鏡・  
小形のみ状磨製石斧
11. 内容要約 土佐山田町の洪積台地上には弥生時代後期から古墳時代にかけての中心的  
集落遺跡が存在している。隣接する林田遺跡もこの時期を代表する遺跡で  
あり本遺跡も期待されたが、検出遺構及び出土遺物は少なかった。しかしながら各時代にわたって重要な資料を提供することになった。特に遺構出土  
の縄文後期土器は注目される。

# 本文目次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 卷頭カラー                |    |
| 序                    |    |
| 例言・報告書要約             |    |
| 目次（本文目次／挿図目次／写真図版目次） |    |
| 第Ⅰ章 調査に至る経過          | 1  |
|                      |    |
| 第Ⅱ章 地理的・歴史的環境        | 2  |
| 1. 地理的環境             | 2  |
| 2. 歴史的環境             | 5  |
|                      |    |
| 第Ⅲ章 調査の方法            | 7  |
|                      |    |
| 第Ⅳ章 調査の成果            | 9  |
| 1. 第Ⅰ調査区             | 9  |
| (1) 概要及び基本層序         | 9  |
| (2) 遺構と遺物            | 11 |
| a. 繩文時代の遺構と遺物        | 11 |
| b. 弥生時代の遺構と遺物        | 13 |
| c. その他の遺構と遺物         | 14 |
| 2. 第Ⅱ調査区             | 16 |
| (1) 概要及び基本層序         | 16 |
| (2) 遺構と遺物            | 16 |
| ① SD 2               | 16 |
| ② 繩文時代の遺物            | 19 |
| ③ 弥生時代の遺物            | 19 |
|                      |    |
| 第Ⅴ章 まとめ              | 20 |

## 挿図目次

|         |  |    |
|---------|--|----|
| Fig. 1  | 高知県の位置.....                            | 1  |
| Fig. 2  | 高知県の市町村と土佐山田町の位置.....                  | 3  |
| Fig. 3  | 四国の河川と構造線 .....                        | 3  |
| Fig. 4  | 林田シタノヂ遺跡と周辺の遺跡.....                    | 4  |
| Fig. 5  | 発掘作業風景 .....                           | 7  |
| Fig. 6  | 発掘調査区位置図.....                          | 8  |
| Fig. 7  | 第 I 調査区基本層序 .....                      | 9  |
| Fig. 8  | 第 I 調査区検出遺構全体図.....                    | 10 |
| Fig. 9  | P—1 平面及び断面図 .....                      | 11 |
| Fig. 10 | P—8 平面及び断面図 .....                      | 11 |
| Fig. 11 | P—9 平面及び断面図 .....                      | 12 |
| Fig. 12 | P—2 平面及び断面図 .....                      | 13 |
| Fig. 13 | P—11, 13, 10, SK—1, SD—1 平面及び断面図 ..... | 15 |
| Fig. 14 | 第 II 調査区基本層序 .....                     | 17 |
| Fig. 15 | 第 II 調査区検出遺構全体図.....                   | 18 |
| Fig. 16 | SD—2 平面及び断面図 .....                     | 19 |
| Fig. 17 | 調査 I 区 P—8, P—11出土遺物 .....             | 22 |
| Fig. 18 | 調査 I 区 P—9 出土遺物 .....                  | 23 |
| Fig. 19 | 調査 I 区 P—9, P—1 出土遺物 .....             | 24 |
| Fig. 20 | 調査 I 区 P—2 出土遺物 .....                  | 25 |
| Fig. 21 | 調査 II 区出土遺物 .....                      | 26 |

## 表 目 次

|        |                    |    |
|--------|--------------------|----|
| Tab. 1 | 周辺の遺跡分布表.....      | 5  |
| Tab. 2 | 第 I 調査区遺構一覧表 ..... | 15 |
| Tab. 3 | 遺物観察表 1 .....      | 27 |
| Tab. 4 | 遺物観察表 2 .....      | 28 |

## 写真図版目次

巻頭図版 繩文後期土器

- P L . 1 第 I 調査区 調査前風景（西より）  
第 I 調査区 東半部遺構検出状況（南より）
- P L . 2 第 I 調査区 遺構検出状況（東より）  
P - 2 遺物（弥生後期土器）出土状況
- P L . 3 P - 8 遺物（繩文後期土器）出土状況
- P L . 4 P - 1 遺物（繩文晚期土器）出土状況  
P - 1 完掘  
P - 2 完掘  
P - 8 完掘  
S K - 1 跛出土状況  
P - 10 • S K - 2 完掘  
P - 9 遺物（繩文晚期土器）出土状況  
P - 9 完掘
- P L . 5 第 I 調査区 東半部完掘状況（南西より）  
第 I 調査区 完掘状況（東より）
- P L . 6 第 II 調査区 調査前風景（北より）  
第 II 調査区 中央バンクセクション（北より）
- P L . 7 S D - 2 検出状況（東より）  
S D - 2 セクション及び遺物（弥生土器）出土状況
- P L . 8 遺物（繩文晚期土器）出土状況（西より）  
第 II 調査区 完掘状況（北西より）
- P L . 9 出土遺物 1 (繩文後期土器)
- P L . 10 出土遺物 2 (繩文晚期土器)
- P L . 11 出土遺物 3 (繩文前期・後期・晚期土器)
- P L . 12 出土遺物 4 (弥生前期・中期・後期土器)  
出土遺物 5 (石鎚)

## 第Ⅰ章 調査に至る経過

林田シタノヂ遺跡は、高知県香美郡土佐山田町林田字シタノヂに所在する。本遺跡は、国庫補助事業として行なわれている高知県内遺跡詳細分布調査によって、平成元年度に発見された新たな遺跡である。この分布調査は、昭和63年度・平成元年度の2ヵ年をもって香美・長岡郡下の10ヵ町村及び南国市を対象として行なわれており、土佐山田町においては従前の周知の遺跡に加え、新たに100ヵ所以上の遺跡が発見された。

土佐山田町林田・山田島地区において、農村基盤総合整備事業として圃場整備が計画された。平成3年12月4日に土木工事等の開発計画の照会があり、当事業工区が林田シタノヂ遺跡に該当することが判明した。当該圃場整備事業は平成3年度・4年度事業であるため早急に対応を迫られることになり、文化財保護部局である高知県教育委員会、土佐山田町教育委員会は、遺跡保護の立場から、高知県南国耕地事務所、土佐山田町産業振興課、林田・山田島土地改良区と協議を重ねた。そこで、まず林田シタノヂ遺跡の範囲・遺物包含層・遺構等の正確な情報を得るために、工事計画内で試掘調査を早急に行なうことになった。その結果、広範囲にわたって遺物・遺構等が検出された。この試掘調査をもとに、当該年度工事地である1号道路・用水路の一部を調査対象地として再度協議を行なったが、平成3年度事業であり計画変更等は不可能であった。そこで工事によって影響を受ける部分については発掘調査により記録保存を図ることとなり、緊急調査を平成4年3月2日～24日まで実施した。平成4年度の工区についても高知県教育委員会、土佐山田町教育委員会は、事前に開発部局と協議を行なった。その結果、6号用水路・7号道路・11号道路・12号道路及び切土部分についても記録保存を図ることとなり、緊急調査を平成4年9月17日～11月9日まで実施した。その後出土した遺構・遺物の整理作業を行ない、平成5年3月26日に調査の全作業が終了した。



Fig. 1 高知県の位置

## 第II章 地理的・歴史的環境

### 1. 地理的環境

土佐には全国的に見ても急流河川が集中している。フィリピン海プレートの押し上げによって形成されたと考えられる急峻な四国山脈と太平洋に面する狭い平野部がこの地形的特徴をもたらしている。剣山地に源を発する物部川は、仏像構造線に沿って西進したのち土佐山田町神母ノ木より平野部に流れ出し、南進して土佐湾中央部へ流入する。全長71kmを有し県下三大河川の1つとして知られている。この物部川左岸の洪積世の台地上に「林田シタノザ遺跡」は所在している。

この遺跡の位置する香美郡土佐山田町は、高知県下最大の穀倉地帯である香長平野の北端部にあたり、県都高知市からは東方へ18kmの場所にある。ここは、東に香北町・西に南国市・南に野市町・北に大豊町と接していて、面積110.98km<sup>2</sup>を有する。しかし70%を森林地帯が占め、平成5年3月現在の人口は22,699人である。

土佐山田町の地形には、洪積世に形成された河岸段丘・古期扇状地(総称して洪積台地と呼ぶ)と沖積世に形成された沖積平野及び扇状地・扇状地性低地(総称して沖積平野と呼ぶ)がある。河岸段丘は神母ノ木上流に顯著に見られる。この段丘は物部川の侵食作用、山地の上昇によつて形成されたものである。古期扇状地は洪積世中期の海水準面が現在よりも一段高かった時期に形成されたものであり、現在の物部川の扇状地よりも一段高い位置にあり、河川疊層などによって形成されている。現在では物部川に侵食されて、山地の裾の部分を中心に神母ノ木付近や土佐山田町の市街地等に一段高い地形として残っている。沖積平野はウルム氷期終了と共に始まった海進が更に進み、最高に達したとき(繩文海進)に形成された海底の平坦面がその後の小海退により地上に姿をあらわしたものである。現在、土佐山田町から南国市後免・日章及び野市町にわたる地域には、扇状地・扇状地性低地が発達している。これは物部川の堆積作用により、沖積平野(香長平野)に形成されたものであり、県下では最大規模を誇る。

地質については、土佐山田町は秩父北帯・黒瀬川構造帯・三宝山帯の3つに分けることができる。その多くを占める秩父北帯は主にジュラ期に形成された付加帯と考えられており、それ以前の海山に形成された石灰岩や海底の堆積物などが混在して分布している。主に石炭紀~二疊紀の堆積物で、枕状溶岩・石灰岩・チャート・凝灰岩などが多く見られる。その南部の黒瀬川構造帯はかなり古い地質年代に形成された付加帯と大陸残骸からなり、それが移動して現在の位置にある。更にその南部にある三宝山帯は三疊紀~ジュラ紀に形成された付加帯であり、石灰岩・枕状溶岩・凝灰岩・チャート・砂岩・泥岩などがみられる。



Fig. 2 高知県の市町村と土佐山田町の位置



Fig. 3 四国の河川と構造線

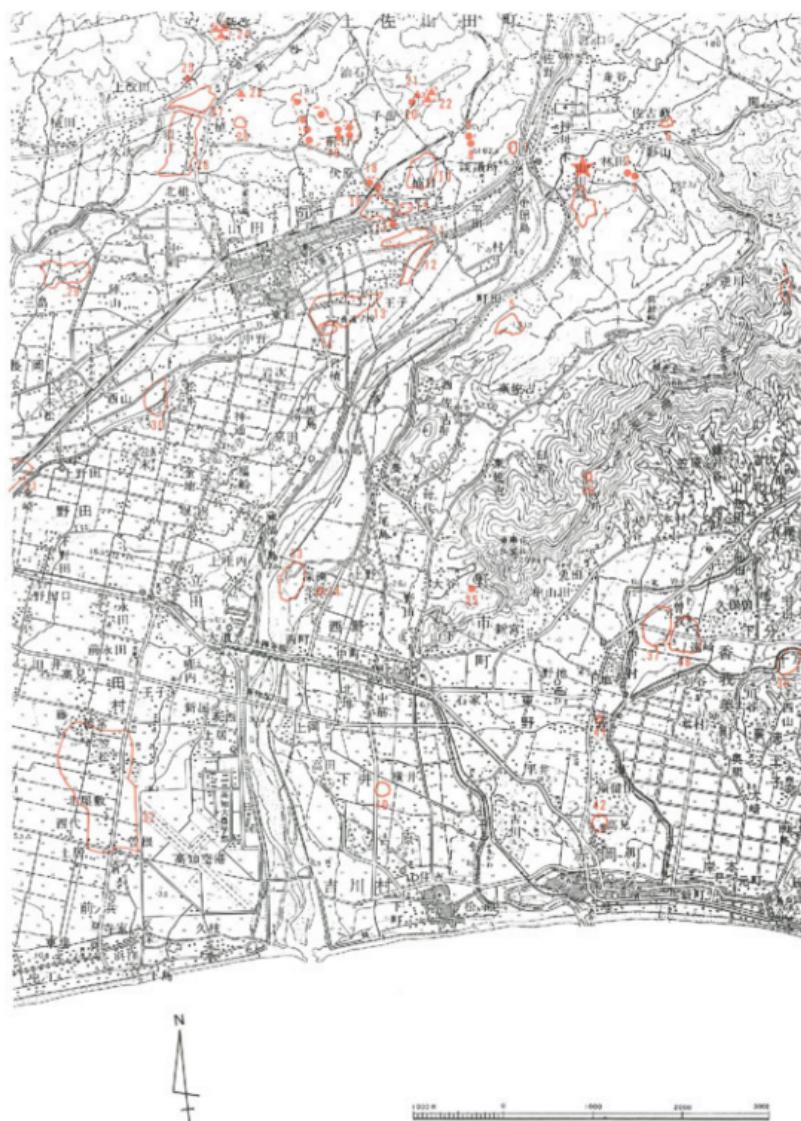


Fig. 4 林田シタノチ遺跡と周辺の遺跡

## 2. 歴史的環境

土佐山田町は南に接する南国市とともに、高知県下屈指の遺跡稠密地帯であり、高知県教育委員会が昭和63年から平成元年にかけて実施した遺跡分布調査によると、194ヶ所を数える。以下、土佐山田町の歴史・遺跡について各時代毎に概述する。

### 縄文時代

土佐山田町の歴史は、縄文時代早期の押型文土器及び多量のサヌカイト製石鏃等を出土した飼古屋岩陰遺跡にその上限を求めることが出来る。この遺跡は吉野川上流地域の最古の遺跡としても知られている。土佐山田町における縄文遺跡としては今回が2例目であるが、物部川流域の河岸段丘・山田町の市街地周辺からは初めての発見である。また物部川流域の縄文遺跡の分布（香北町、美良布遺跡等）から、今後新たな縄文遺跡の発見が予測される。

### 弥生時代

今のところ弥生中期末から遺跡の存在が知られている。この時期の代表的な遺跡に、三宝山中腹の龍河洞洞穴遺跡(4)がある。この遺跡は、高知県中央部以東の標式遺跡として（龍河洞式土器出土）、また石灰華にまかれた「神の壺」のある遺跡として有名である。平野部に目を転じると原遺跡(3)・原南遺跡(4)・稻荷前遺跡(5)等があり、堅穴住居址が数棟検出されている。後期後半から古墳時代初頭にかけては、香長平野全域（特に洪積台地上）で集落遺跡数の増加が著しい時期として捉えられる。このことは鉄器の普及からも窺い知ることができる。県中央部以東の標式土器とされている土器群（ひびのきI～III式土器と命名）を出土したひびのき遺跡(6)をはじめ、ひびのきサウジ遺跡(6)・林田遺跡(1)などがこの時期を代表する遺跡として挙げられる。

#### ★林田シタノダ遺跡

| No. | 遺跡名        | 時代    | No. | 遺跡名    | 時代       |
|-----|------------|-------|-----|--------|----------|
| 1   | 林田遺跡       | 弥生～中世 | 22  | 長谷山窯跡  | 平安       |
| 2   | 林田1号墳      | 古墳    | 23  | タガン窯跡  | 飛鳥       |
| 3   | 林田2号墳      | 〃     | 24  | 林谷窯跡   | 古墳～平安    |
| 4   | 龍河洞遺跡      | 弥生    | 25  | 新改古墳   | 古墳       |
| 5   | 鳥ヶ森城跡      | 中世    | 26  | 植村城跡   | 中世       |
| 6   | 影山城跡       | 〃     | 27  | 須江北遺跡  | 古墳～平安    |
| 7   | 雪ヶ峰城跡      | 〃     | 28  | 須江上段遺跡 | 古墳～近世    |
| 8   | 雪ヶ峰1号墳     | 古墳    | 29  | 三島遺跡   | 弥生～平安    |
| 9   | 雪ヶ峰2号墳     | 〃     | 30  | 金地遺跡   | 弥生・平安・中世 |
| 10  | 袖目城跡（山田城跡） | 中世    | 31  | 東崎遺跡   | 弥生～中世    |
| 11  | 袖目遺跡       | 弥生～近世 | 32  | 田村遺跡群  | 縄文～近世    |
| 12  | 稻荷前遺跡      | 〃     | 33  | 深瀬遺跡   | 〃        |
| 13  | 原遺跡        | 〃     | 34  | 深瀬城跡   | 中世       |
| 14  | 原南遺跡       | 〃     | 35  | 大谷古墳   | 古墳       |
| 15  | ひびのき遺跡     | 弥生・古墳 | 36  | 笠ヶ峰遺跡  | 弥生       |
| 16  | ひびのきサウジ遺跡  | 弥生～近世 | 37  | 曾我遺跡   | 弥生～中世    |
| 17  | 大塚古墳       | 古墳    | 38  | 下分遠崎遺跡 | 弥生       |
| 18  | 伏原古墳群      | 〃     | 39  | 十万遺跡   | 弥生～中世    |
| 19  | 前行古墳群      | 〃     | 40  | 下井遺跡   | 平安・中世    |
| 20  | 予岳古墳       | 〃     | 41  | 香宗城跡   | 中世       |
| 21  | 予岳窯跡       | 〃     | 42  | 須留田城跡  | 〃        |

Tab. 1 周辺の遺跡分布表

## 古墳時代

“小円墳、横穴式石室、群集”といった特徴をもつ後期古墳の存在が、山麓部を中心に多く知られている。その中で昭和52年に一部発掘調査が行なわれた伏原大塚古墳<sup>1)</sup>は、県内に現存する唯一の前方後円墳と言われていたが、平成3・4年に行なわれた3度の発掘調査の結果、四国最大の方墳であることが判明した。

## 古代

この時期の遺跡が所在するところとして、新改・植・須江地区を挙げることができる。土佐の古窯跡の中心地といわれる様に、この地区を中心として山麓部に多くの瓦窯・須恵器窯がみられる。ここは比江庵寺の瓦を焼いたタンガン窯跡・国分寺の平瓦を焼いた東谷窯が所在することからも、国分川の水運を利用して土佐国府（南国市）との結びつきが窺えるところでもある。また「須江」という地名が残っている様に古墳時代より多くの須恵器生産がなされたところもある。他に香美郡衙跡や南海道の駅家跡と推定される区画も残っている。

## 中世～近世

山田郷において、甲斐源氏一条忠頼の家人であった大中臣秋家が山田氏の祖となったと伝えられている。その子孫は代々山田氏と称し、その居城として室町期には楠目城跡が所在している。山田氏は戦国時代の土佐七守護の一豪族として有名であると共に、やがて長宗我部氏の支配下に入ることが知られている。この他、高柳土居城跡・烏ヶ森城跡<sup>(5)</sup>などの中世城跡が残っている。江戸期では、土佐2代藩主山内忠義に仕えた野中兼山による山田堰が知られている。これは新田開発を目的としてつくられたものであり、水門を設けることにより4本の用水路が開発された。

## 註

注1 新期扇状地との比高差は約10m

注2 約6,000年前

注3 付加体は海洋プレートが大陸プレートに沈み込むときに出来る。この沈み込みに伴って、海洋プレートの一部や海洋底の堆積物などが大陸側に押しつけられることによって形成される。

## 参考文献

『土佐山田町史』 土佐山田町教育委員会 1979

『角川日本地名大辞典』 高知県 角川書店

『高知県の地名』 平凡社

『土佐の川』 高知県内水面漁業協同組合連合会

平朝彦 『日本列島の誕生』 岩波新書

森田尚宏他 『飼古基岩陰遺跡調査報告書』 日本道路公団 高知教育委員会 1983

森田尚宏他 『林田遺跡発掘調査報告書』 土佐山田町教育委員会 1985

出原恵三 『原南遺跡発掘調査報告書』 高知県文化財団 1991

曾我貴行 『ひびのきサウジ遺跡II発掘調査報告書』 (財)高知県埋蔵文化財センター 1992

廣田佳久 『土佐山田町伏原大塚古墳』 「埋文こうち」第6号 高知県教育委員会

森田尚宏 『土佐山田町北部遺跡群試掘調査報告書』 土佐山田町教育委員会 1992

### 第III章 調査の方法

調査対象地は「林田シタノヂ遺跡」(高知県市町村遺跡番号 No. 190180)として周知された場所であった。今回の圃場整備事業及び工期の変更は既に不可能で、かつ緊急を要する情勢となっていた。そこで圃場整備計画地をA～D地区に分け、図上に67の試掘坑を設定した。その後現地を確認し、ビニールハウスや農作物に影響のない場所について、46ヶ所坪掘りを行なった。2 m×2 m の試掘グリッドはすべて人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認、土層堆積状態の略測及び写真撮影を行なった。尚、検出した遺構等によってグリッドの拡張を行なった。

平成3年度分の発掘調査は、新しく設けられる道路・用水路に伴って早急に行なう必要に迫られた。こうした状況下で、TR-10の4 m×4 m の試掘グリッド、TR-9・TR-11の2 m×4 m の試掘グリッドを更に拡張するかたちで調査を実施し、遺構・遺物については実測及び写真撮影を行なった。

平成4年度分の発掘調査は、試掘調査・平成3年度分発掘調査の結果をふまえながら、道路・水路・切土部分を中心に調査I区～III区を設定した。I区・II区は全面を調査し、III区はトレーナー調査を行なってその結果で拡張を考えていた。調査手順としてはまず重機によって表土層を剥いだ。包含層である黒色粘質土層でも、検出される遺物の量によって褐色粘質土層上面まで重機により堆積土を除去した後、人力によって遺構検出及び遺構の掘り下げを行なった。遺構の実測・遺物の取り上げについては、任意の地点を基準点としてグリッドを設定した。25m×25mの大グリッドと5 m×5 m の小グリッドの2種がある。大グリッドは、北西隅を基準としてx軸を数字(1～10)、y軸をアルファベット(A～M)で表記しその交点をグリッド名とした。すなわち、A-7、K-4などという呼称になる。小グリッドは、大グリッドの北西を起點として1から25まで分割した。小グリッドの呼称はB-8-1、H-2-18と言うようになる。

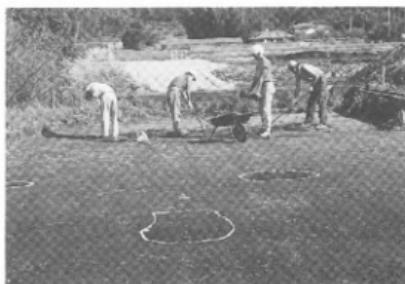


Fig. 5 発掘作業風景

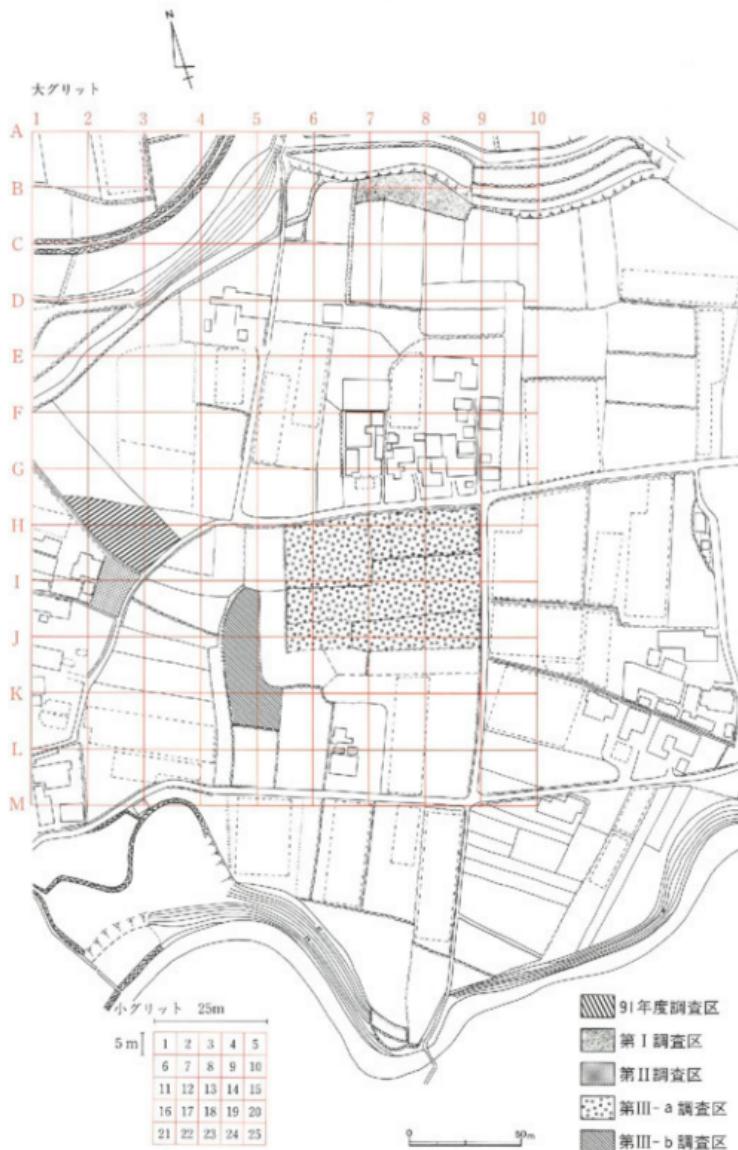


Fig. 6 発掘調査区位置図

## 第IV章 調査の成果

### 1. 第I調査区

#### (1) 概要及び基本層序

第I調査区は、洪積台地上にある調査区の北端に位置し、その北側は比高差約10mの急斜面になっている。第I調査区を東西に3分すると、両サイドは表土層を剥いた段階ですでに地山面となつた。中央部はゆるやかに落ち込んでいる様であり、中心部に向けて堆積が深くなっていると考えられた。そこで調査I区の基本層序は、調査区の中央部に南北方向のセクションベルトを残して断面の観察を行なつた。確認された基本層序は以下の通りである。

I層 耕作土層(含床土層)

II層 黒色粘質土層

III層 褐色粘質土層

IV層 黄褐色粘質土層

V層 灰褐色砂礫土層

VI層 黄褐色粘性砂礫土層

VII層 褐色砂礫土層

第I層は表土層で現在の耕作土層及び床土層である。層厚は全体的に20~30cmであった。第II層は所謂黒ボクと呼ばれている火山灰の土壤化した土層で、セクションベルト南側の方では礫を多く含んでいた。この黒ボクは調査区の中央部で見られ、両サイドは後世の削平等でカットされた為か見られなかった。第III層は鬼界アカホヤテフラと呼ばれる火山灰土層(音地)であり、ほとんどの遺構はこの層準上面で検出された。II層同様中央部で堆積が確認でき、両サイドでは見られなかった。第IV層は無遺物層でセクションベルト北側の方で見られた。又、調査区中央部よりやや西側において、I層を剥いた段階で一部見られ地形のうねりや削平が窺えた。第V層~第VII層も無遺物層であり砂礫を多く含んでいる。第V層上面は調査区の両サイドで遺構検出面となっている。

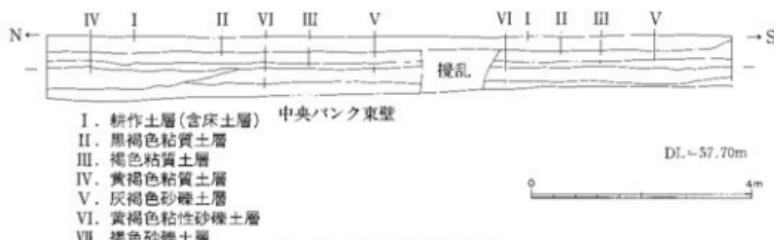


Fig. 7 第I調査区基本層序

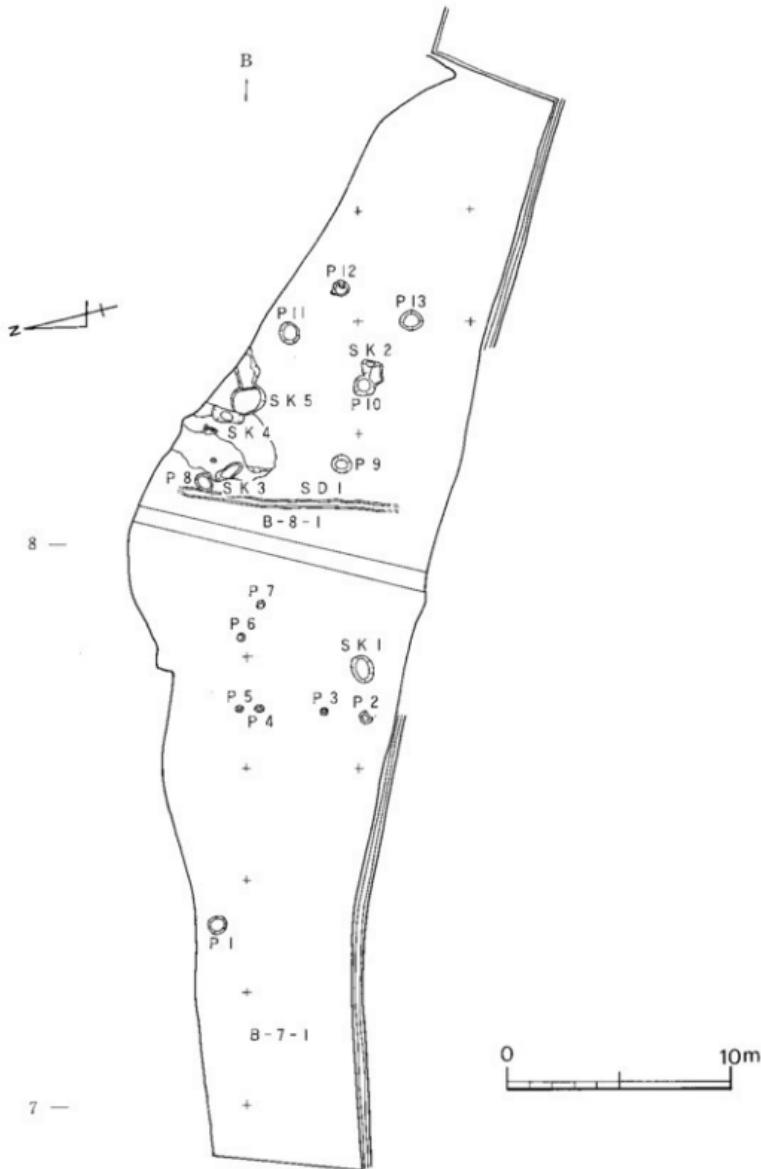


Fig. 8 第1調査区検出遺構全体図

## (2) 遺構と遺物

### a. 繩文時代の遺構と遺物

#### ① P 1

P 1は調査区の西側サイド北端で検出した。A-7-22のグリッド上に位置し、回りには疊が多く基本層序のV層を掘り込んでいる。81×69cmの梢円形のプランを有し、かなりの削平を受けている様で深さは13cmと浅い。埋土は黒色の粘質土単純一層である。出土遺物はいずれも胴部ばかりであるが、二枚貝による条痕を施した縄文晩期の粗製土器片が25点出土した。資料として色調・胎土のやや異なるものを3点(17~19)図示したが、個体数はさほど多くないであろう。仰・仰は内外面共に二枚貝による横位の条痕を施しているが、内面はあまり顕著に見られない。仰は条痕? しかしと貝殻条痕は認められないが、擦痕が顕著に見られる。

#### ② P 8

P 8は調査区のほぼ中央部北側においてIII層上面で検出した。A-8-21のグリッド上に位置する。89×64cmの梢円形のプランを有し、深さは47cmと調査区の遺構の中では深い。埋土は黒色の粘質土単純一層である。出土遺物は、検出面直下より縄文前期の土器と考えられる細片2点(1・2)が出土した。これは、おそらく後世の削平等で混入したものであろう。そして図示した様に、埋土中層より縄文後期初頭の土器が内面を上に向か2点(3・4)重なって出土した。その他にもう1点土器片が壁にはりつく様に出土したが、胴部は時期は不明である。又、中層から下層にかけては、拳大前後の大きさの礫が約30個投棄されていた。そのうち約4%は被熱変色している。

縄文土器(1)・(2)は共に細片であるが、他の縄文土器に比べ薄く胎土にも違いがみられる。(1)は口縁下に4条の微隆起帯を貼付してその間にヘラ状原体で列点を施している。(2)も列点が施されているのであるが、(1)に比べて列点の単位が小さく深い。(3)・(4)は共に体部上部に太くて深い沈線による文様帶を施していて、中津式の古段階に併行するものである。(3)は巾4mmの沈線で深く施文せられる。左に開口する長梢円の区画文(4単位?)を内傾気味に立ち上がる口縁外面に施文している。細砂・粗砂を多く含み粗雑なつくりであるが、内外面共にナデによる調整を施している。又、外面には口縁端部に至るまで多くの煤が付着している。(4)は(3)ほど深くないが、内傾する頸部から口縁部にかけて巾4mmの太い沈線で区画文を施している。その文様帶は、内側の枠組み(4単位?)を外側の沈線が囲む様なかたちで施されている。全体的にチャートの粗粒砂を多く含み、外面はナデ・内面は擦痕の様な荒いナデで調整している。又、

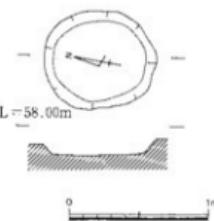


Fig. 9 P-1 平面及び断面図

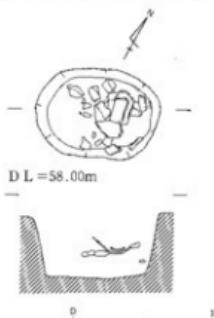


Fig. 10 P-8 平面及び断面図

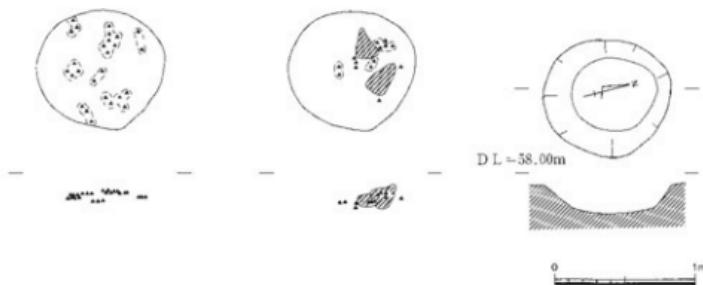


Fig. 11 P-9 平面及び断面図

外面には煤が付着している。

### ③ P 9

P 9 は調査区のほぼ中央部にあり B-8-1 のグリッド上に位置する。92×87cm の円形のプランを有し深さは22cmと浅い。埋土は黒色の粘質土単純一層である。断面は中央最深部に向けてゆるやかに落ち込み、大きな椀の様なかたちをしている。出土遺物は縄文晩期土器135点である。しかし細片が多く、いくつかの土器片についてのみドットで図示した。そして点として押さえられないものも、一つの枠としてくくることにより図示した。又、このピットからは長径25cmの河原石が2個出土し、中央部では炭も検出することができた。縄文土器は浅鉢と深鉢であり、比較的良い資料に恵まれたので以下器種毎に分類し説明を加える。

#### 浅鉢 (6~9)

**浅鉢A** (6)下脚部より斜め外方に直線的に立ち上がり、上脚部で強く内側に屈曲する。そして再び口縁部に向かって外反するが口縁部端は欠損している。外面の上脚部最大径の所よりやや上方では沈線状による段が見られる。一部それがとぎれた所があり方形の扁平な突起状になっている。全体的に薄く内外面共に丁寧なヘラ磨きが施されている。又、外面脚部下半は二枚貝による条痕が施されている。煤の付着が一部見られる。

**浅鉢B** (7)短く斜上に開く口縁部から外に張り出す脚部をもち、脚部最大径の所で反転して底部へ至る。脚部径の方が口縁部径よりも大きく、口縁端部はやや丸く肥厚する。内外面共にやや剥落している様だが外面に一部横方向のヘラ磨きが見られる。

**浅鉢C** (8)下脚部より外方に立ち上がり、上脚部で屈曲した後外湾していく。屈曲した段部より上部にかけての部分には、ヘラ状工具による沈線文を施している可能性がある。外面はやや剥落しているが内面は横方向にヘラ磨きが施されている。

**浅鉢D** (9)口縁部はやや外反し口縁端部は内側に丸く肥厚する。内外面共に横方向にヘラ磨きが施されている。

### 深鉢 (10~16)

**深鉢 I類 (10~12)** いずれも粗製の深鉢で、口縁端部にヘラ状原体で刻目が密に施されている。側はあまり顕著に見られないが内外面共に貝殻条痕が施されている。口縁端部はしっかりと面どりがなされ、ヘラ状原体で内側から外側に対して右下がりで刻目が施されている。(以下、右下がり R、左下がり L) (10)・(12)は色調・胎土共に似ており同一個体の可能性がある。(10)の内面は貝殻条痕を横方向に施した後、縱方向にナデている。外面も上から下にナデしている。口縁端部はやや丸みをもたせし方向に刻目が施されている。(12)も内外面にナデが見られる。口縁端部は(10)に比べてやや厚く、刻目はほぼまっすぐに施されている。

**深鉢 II類 (13~16)** いずれも粗製の深鉢で、口縁端部に貝殻腹縁による刻目が密に施されている。(13)は最大径を上胴部に有し、口縁部はゆるいくびれ部から直立気味に立ち上がる。貝殻条痕が内外面に施されているが、特に外面は顕著である。口縁端部は面どりがなされ貝殻腹縁による刻目がR方向に施されている。(14)は細片であり、(13)と近似している。しかし、外面に施された貝殻条痕の単位が大きい。口縁端部の刻目もR方向だが極端に横ななめ方向に長く施された所もある。(15)・(16)は細片であるため全体的な観察ができない。しかし内外面に貝殻条痕が見られず、II類のタイプとしては違いが見られる。(14)・(16)共に内面は横方向にナデしている。刻目については、(15)はR方向に施されているが(16)はL方向に施されていてしかも単位が太い。

#### ④ P11

P11はB-8-2のグリッド上に位置する。98×88cmの梢円形のプランを有し、深さは9cmと非常に浅い。埋土は黒色の粘質土單純一層である。出土遺物は縄文後期の土器片1点(5)が出土した。外面に縄文原体RLを施している。

#### ⑤ P13

P13は104×94cmのプランを有し、深さは31cmである。出土遺物は土器の細片が2点出土した。図示できるものはないが、色調・胎土等で縄文土器と思われる。

#### b. 弥生時代の遺構と遺物

##### ① P 2

P 2はB-7-9のグリッド上に位置する。64×50cmの不整形のプランを有し、深さは18cmと比較的浅い。埋土は黒色粘質土である。ピットの近くには礫が多く見られ、完掘したピットの中にも拳大の礫がいくつか突出している。このピットからは、弥生後期中葉の土器片約90点と土器と重なる様に拳大の扁平な礫が1点出土した。この礫は使用痕は見られないものの、火を受けていたのか少し赤く変色していて明らかに回りのものとは様相を異にしていた。

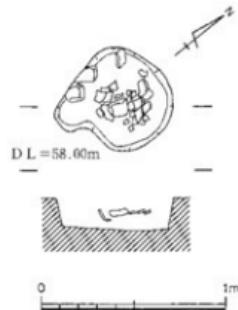


Fig. 12 P-2 平面及び断面図

**甌 (20~22)** ⑩は内面に稜をなして「く」の字状に外反する口縁部で、口唇部には2条の凹線が施されている。口縁部は内外面共に横方向にナデ調整を行い、口縁直下より内面は斜め方向にヘラ削りが施され、外面は縦方向にハケ調整が施されている。⑪も外反した口縁部であり、内外面共に横方向にナデ調整を施している。口唇部は横方向への強いナデにより凹状をなしている。⑫は下方よりゆるやかに丸みを帯ながら立ち上がり口縁部で「く」の字状に外反する。内面の口縁部直下は右から左へ横方向に軽くヘラ削りが、洞部は下方から上方への縦方向に強いヘラ削りが施されている。外面は口縁部直下より縦方向にハケ調整が施されている。後期前半に属する。

**高杯 (23)** 脚部は欠損しているが、浅い椀状をなすタイプのものである。焼成不良で器面が軟質でありしかも磨耗している。口縁部外面に2条の凹線を施し、外面洞部下方から上方にハケ調整が施されている。

**壺 (24)** 底部小片で外面やや剝落しているものの、底径7cmの平底をもつ。底部外縁は丸みをもち外方へ立ち上がっていく。内面はナデ調整を施していく、指頭圧痕を残す。外面は縦方向にハケ調整を施している。

#### ② P10

P10はSK2を切っている。105×89cmの不整の隅丸方形である。深さは52cmと調査区の遺構では一番深い。埋土は黒色粘質土である。このピットからは弥生土器片35点が出土した。細片が多く図示できる資料はないが、丸底を指向した底部片や色調・胎土・調整等で弥生後期の終末期のものと考えることができる。

### c. その他の遺構と遺物

#### ① SK 1

SK1はB-7-9のグリッド上に位置する。長軸133cm・短軸89cmのやや長めの橢円形のプランを有する土坑である。西側がやや高くなっている深さは西端で26cm・東端で6cmを測る。埋土は黒色粘質土である。検出面で20~30cmの疊が2点出土し、埋土中では大小の疊が7点出土した。遺物は土器の細片が2点出土したが図示し得るものはない。

#### ② SD 1

SD1は調査区のほぼ中央部に位置している溝で、主軸方向はN-18°-28°-25°-Eである。検出長は9.25mで、幅は27~36cmである。床面は全体をとうして凹凸が見られ南北端の差は殆ど見られない。埋土は黒色粘質土で、埋土中より土器の細片が3点出土した。しかし、図示し得るものはなく性格も判断できない。

#### ③ SK 3 ~ SK 5

これらの土坑が位置する所では北側方向への落ち込みがみられた。縄文土器や弥生土器の細片も幾つか見られたが、擾乱を受けていた。

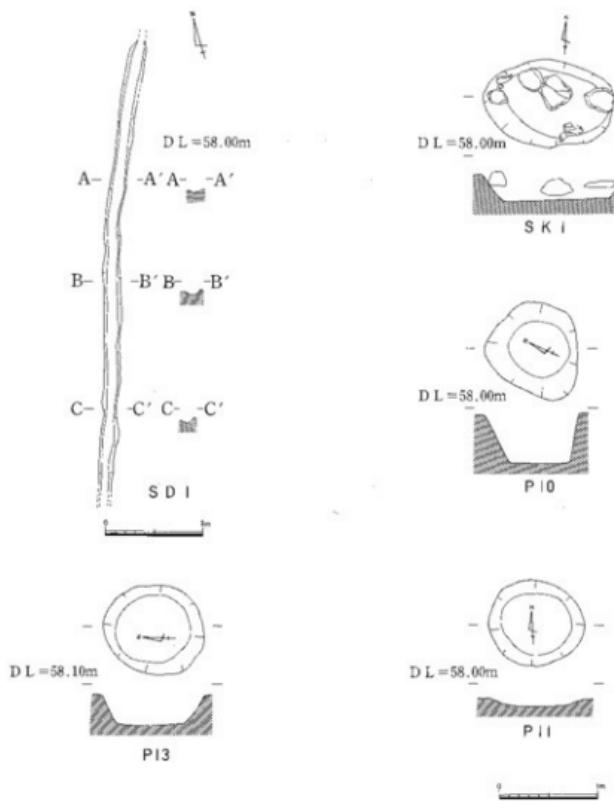


Fig. 13 P-11, P-13, P-10, SK-1, SD-1 平面及び断面図

| 1.井戸名 | 真高(cm) | 掘削高(cm) | 底さ(cm) | 形状       | 出土遺物     | 出土土器実例No.                              | 備考               |
|-------|--------|---------|--------|----------|----------|--|------------------|
| P 1   | 95     | 69      | 15     | 横円形      | 縄文土器片25  | 17, 18, 19                             |                  |
| 2     | 64     | 59      | 16     | 不整形      | 弥生土器片30  | 20, 21, 22, 23, 24                     | 床面に疊あり（焼石）       |
| 3     | 22     | 29      | 23     | 円形       |          |  |                  |
| 4     | 38     | 32      | 21     | 横円形      |          |  |                  |
| 5     | 31     | 25      | 21     | 円形       |          |  |                  |
| 6     | 25     | 32      | 6      | 円形       |          |  |                  |
| 7     | 37     | 36      | 19     | 円形       |          |  |                  |
| 8     | 89     | 64      | 47     | 横円形      | 縄文土器片5   | 1, 2, 3, 4                             | 多くの疊あり（焼石）       |
| 9     | 92     | 87      | 22     | 円形       | 縄文土器片135 | 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16 | 河原石2             |
| 10    | 105    | 89      | 52     | 不整の楕円丸形  | 弥生土器片35  |  |                  |
| 11    | 98     | 88      | 9      | 横円形      | 縄文土器片1   | 5                                      |                  |
| 12    | 85     | 66      | 22     | 不整形      |          |  |                  |
| 13    | 104    | 94      | 31     | 横円形      | 土器片2     |  |                  |
| S.K.1 | 135    | 89      | 26     | やや尖めの横円形 | 土器片2     |  | 地山面に大きな窓2、埋土中に疊？ |
| 2     | 129    | 72      | 44     | 不整形      |          |  | P.10に切られていた      |
| 3     | 135    | 56      | 13     | 長めの横円形   |          |  | 擾乱を受けている         |
| 4     | 145    | 61      | 39     | 長めの横円形   |          |  | N                |
| 5     | 159    | 118     | 39     | 横円形      |          |  | N                |
| SD.1  | 925    | 30      | 12     |          | 土器片3     |  |                  |

Tab. 2 調査I区遺構一覧表

## 2. 第II調査区

### (1)概要及び基本層序

第II調査区は、H-2・I-2のグリッド上にまたがる。この調査区は、試掘調査及び平成3年度分発掘調査の結果状況等から見てもかなり期待がもてる場所であった。現況は平坦な面が広がっているが、この林田シタノデ地域の東側の方では畑をつくる段階でかなりの削平を行なったという地元の人の話などからも、旧地形は全体的に東の方が高かったと考えられる。西側にある第II調査区ではかなり深めに包含層があると考えられ、調査区の中央部にセクションベルトを残すことにより断面の観察を行なった。確認された基本層序は以下の通りである。尚、この調査区は道路と人家にはさまれた場所であり、掘り下げには道路・人家からそれぞれ一定距離をとり十分注意する必要があった。遺物の出土状況が道路側に近い所に集中していたが上記の理由で拡張できなかったのは残念であった。

I層 農作土層

II層 灰褐色粘質土層（床土層）

III層 黒色粘質土層

IV層 鶴色粘質土層

V層 黄褐色砂礫土層

第I層は表土層で現在の耕作土層である。層厚は全体的に20~30cmであった。第II層は床土層で層厚は20cm前後であった。第III層は所謂黒ボクと呼ばれている土層であり、丁度中央部セクションベルトより北側の方で集中して見られ、南側の方ではほとんど見られなかつた。又、西側の人家の方に向けて深く堆積していると考えられていたのが、緩やかではあるが東側の道路側の方に向かって堆積していた。全体的に遺物はさほど多くなかったのであるが、西側と東側の壁では堆積に20cm前後の差があり、これが遺物の出土状況にも表れている様にも思われる。第IV層は鬼界アカホヤテフラと呼ばれる火山灰土層（音地）であり、所によっては砂礫を多く含んでいた。III層と同様で中央部より北側で集中して見られ、南側ではほとんど見られなかつた。遺構検出面はこの層準上面である。第V層は礫を多く含んだ地山面である。中央部より南側ではI・II層を剥いだ段階でほとんどがこの面となり、北側でもIII層を剥いだ段階で部分的に見られた。この事からも地形の凹凸が窺える。

### (2)遺構と遺物

#### ① S D 2

S D 2はH-2-12・13・17・18・19の5つのグリッドにまたがって位置している溝である。検出面はIV層上面で、埋土は黒色粘質土単純一層である。西方よりゆるやかなカーブを描いて北側の壁へと続いている。検出長は6.40mで、幅は西側で34cm・中央部110cm・壁際115cmとなっていた。深さは10cm以内で浅い。土器片8点が出土したがいずれも胴部細片であった。

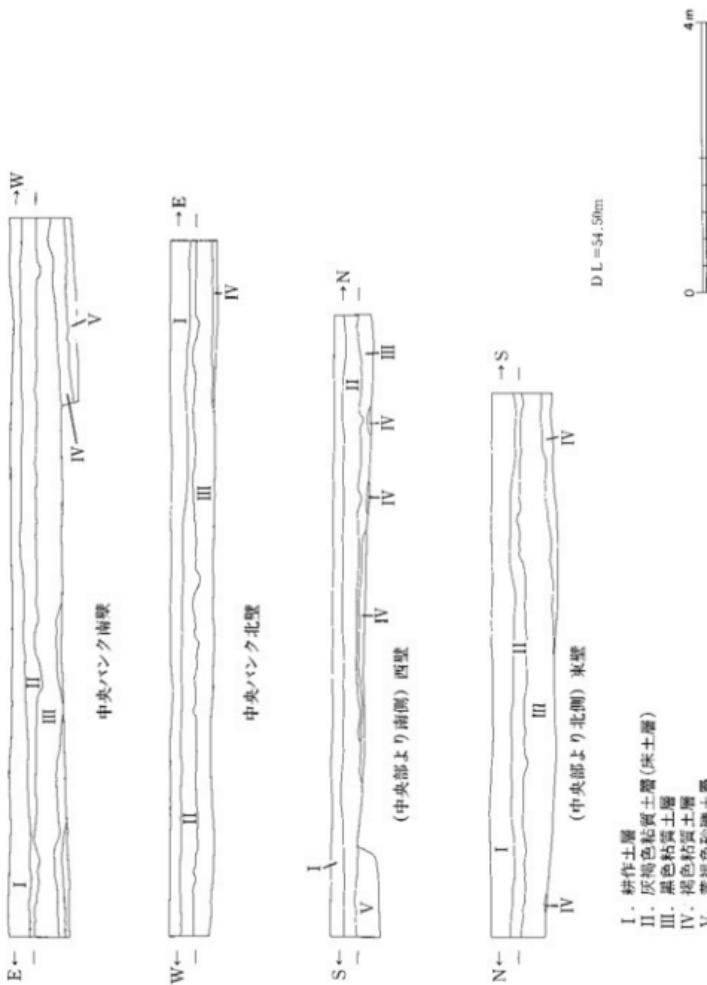


Fig. 14 第II調査区基本順序

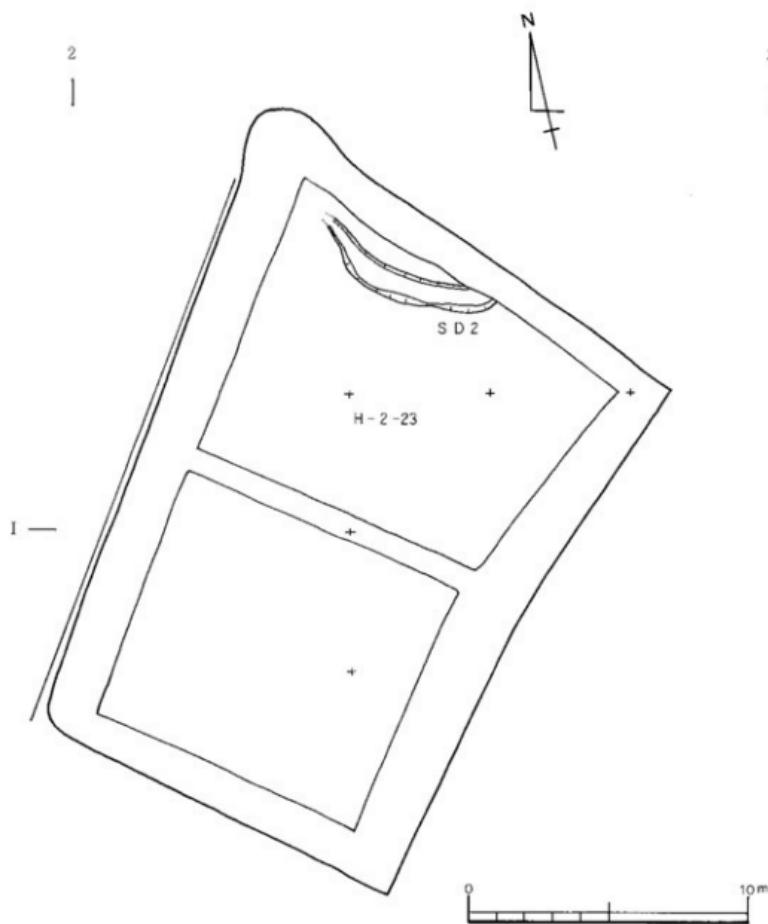


Fig. 15 第II調査区検出遺構全体図

(3)は弥生前期末に位置づけられる土器である。7条のヘラ描き沈線が確認でき、1条目から5条目の間にはそれぞれ列点が施されている。(4)は弥生中期中葉の土器である。細片であり剥落している部分があるが、単位の細い5条からなる彫描き簾状文が施されている。

## ②縄文時代の遺物

調査II区より出土した遺物のほとんどは縄文土器であり、主にH-2-24のグリッド上の第III層(包含層)からの出土であった。この層準上方で出土した(3)以外は下方出土の細片で図示できる資料は僅か7点である。(3)は拵大の扁平な河原石に潰された様に出土した。精査したにもかかわらずプラン等は検出し得なかった。この土器は非常に粗雑なつくりであり、煤が多く付着している。(4)は無刻の突帯文土器である。深鉢の口縁部で下方より外側にほぼ直線的に開く。口縁部はやや外反し端部は丸くおさめている。突帯はシャープな三角形をなし、口縁端部よりやや下がった位置に貼付している。器面調整は内外面共に丁寧なヘラ磨きが施されている。(5)も口縁部よりやや下がった位置に突帯が見られるが、刻目の有無は確認できない。(6)に比べると粗雑なつくりである。(7)は刻目突帯文土器である。外反気味に立ち上がり口縁部は肥厚する。口唇部にヘラ条原体で刻目を施し、脣部外面は具艘条痕を施している。(8)はかなり大きめの土器である。口唇部はしっかりした面をなし下端に太い刻目を施す。内面及び口唇部はヘラ磨きが施されている。(9)は黒色磨研土器で外面にヘラ磨きが施されている。(10)は壺である。胎土等からみて搬入品と考えられる。その他道路側の東壁部分のII層(床土)から、縄文時代の石鐵が1点(11)出土した。四基式で重さは0.25gである。石質はサスカイトで風化により白っぽくなっている。

## ③弥生時代の遺物

調査II区包含層出土の弥生土器は少なく図示できる資料は次の2点である。(12)は包含層の上面部分から出土したものである。平底の底部で、内外面共にナデ調整が施され内面下方には指頭圧痕が残る。(13)は剥落・磨耗がつよい。ゆるやかに外反した口縁部に2条の凹線文を施している。第IV様式に属する。

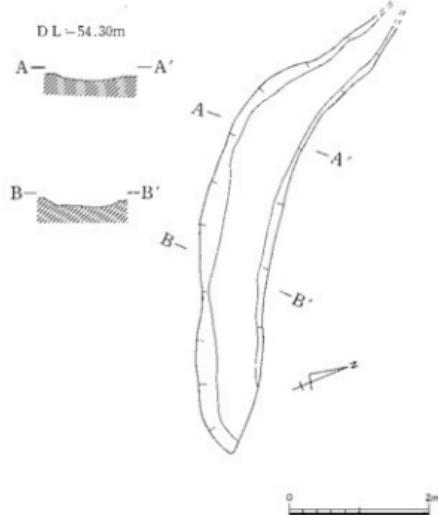


Fig. 16 S D-2 平面及び断面図

## 第V章 まとめ

### ～P 8 出土の縄文後期土器について～

本遺跡出土の資料は全体的に少ないものの、各調査区毎に重要な資料がいくつか出土した。ここでは、調査Ⅰ区出土の縄文後期土器2点について簡単にふれておきたい。

県下における縄文時代遺跡の分布は西高東低である。全体の約7割が、西部の四万十川流域や海岸段丘上にある。中でも人口が増加する縄文後期の指標遺跡が多々存在し、土器研究やこの時期を支える漁撈文化の発達など、縄文文化の研究が他のどの時期よりも進んでいる。しかしながら近年の発掘調査の増加により、中央部でも後期・晩期を中心に遺跡の発見が相次いでいる。今次調査の対象となった「林田シタノチ遺跡」もその1つである。すでに述べたように、本遺跡からは少量であるが後期と晩期の資料をうることができた。2点の後期土器は遺構からの出土である。周辺における後期の遺跡は、押原遺跡<sup>注1</sup>や田村遺跡群<sup>注2</sup>・柳田遺跡<sup>注3</sup>を挙げることができる。柳田遺跡からは、現在資料整理の進行中であり詳しいことはまだ判明していないが、前二者はすでに報告書も刊行されている。押原は、後期前葉の宿毛式と南四国における成立期の縁帶文土器・松ノ木式の段階の資料であり、田村は縁帶文期の資料である。

さて、当遺跡出土の後期土器の編年的位置づけを行なわなければならない。本例の特徴を今一度述べれば、太くて深い沈線が口縁部周辺に描かれていることを第Iにあげることができよう。今村啓爾氏は、「平式に見られるI帯の窓枠状の区画が中津I式にも維持される。中津II式では文様を描く沈線はI式よりも細くなり、I帯の窓枠形の区画は退化する。」と指摘している。又、文様構成上で岡山県昭和町の建行田遺跡や広島県福山市洗谷貝塚の中から非常に類似した土器を見出すことができる。このようなことからこの2点の土器は、中津式古段階に併行するものである。中津式土器はいうまでもなく岡山県倉敷市中津貝塚<sup>注4</sup>を標準遺跡としている。高知県の後期初頭の標準土器は土佐清水市出土の下益野式土器で、磨削縄文を主体として沈線文、無文・条痕土器で構成されている。しかし現時点での高知県中央部における後期初頭の土器は未確認であり、この2点の土器は今後中央部の後期土器編年を組む上で指標となろう。又、木村剛朗氏は四国及び高知県内の中津式期の分布によって、下益野式土器集団が瀬戸内海に突出した高縄半島から仁淀川・四万十川を伝い高知県西部へと南下するルートや、自然環境に適応した漁漁業の盛行等を推察している。それに対して中央部の地域色が今後の発掘調査の増加によりどういう様相になるのか、あらゆる面で一石を投じるものとなろう。いずれにせよ、本地域における先に紹介した3遺跡は低湿地に営まれているのに対して、本遺跡は標高約60mの洪積台地の段丘面にあり、新段階になり低湿地への移動があったかなど生業と集落遺跡を考える上で非常に興味深いところである。

## 註

- (1) 菊本健児『高知県史・考古編』高知県 1968年
- (2) 出原恵三『押原遺跡』香我美町教育委員会 1993年
- (3) 森田尚宏『田村遺跡群』第1分冊 高知県教育委員会 1986年
- (4) 出原恵三『松ノ木遺跡I』本山町教育委員会 1991年
- (5) 今村哲爾『称名寺式土器の研究』下『考古学雑誌』63~ 2 日本考古学会 1977年
- (6) 間壁忠彦・明子『建行田遺跡』『倉敷考古館研究集報』第3号 1967年
- (7) 小部隆綱『洗谷貝塚』洗谷貝塚発掘調査団 福山市教育委員会 1976年
- (8) 『岡山県史』第十八巻 考古資料
- (9) 木村剛朗『土佐における後期縄文文化について』『高知の研究1』清文堂 1983年
- ⑩ (9)に同じ
- ⑪ 高橋護『縄文時代における集落分布について』『考古学研究』第11巻-1 考古学研究会 1965年

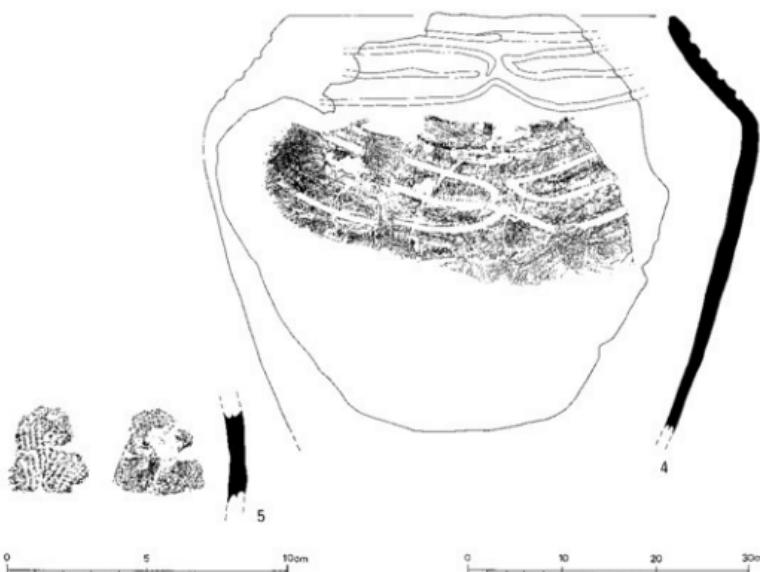
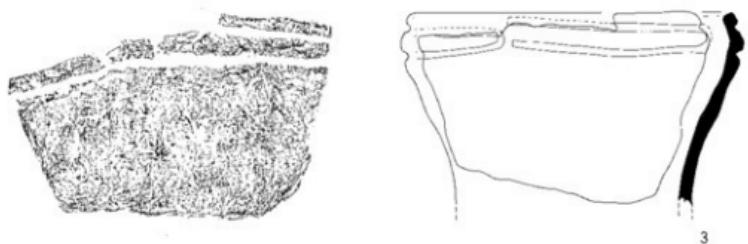
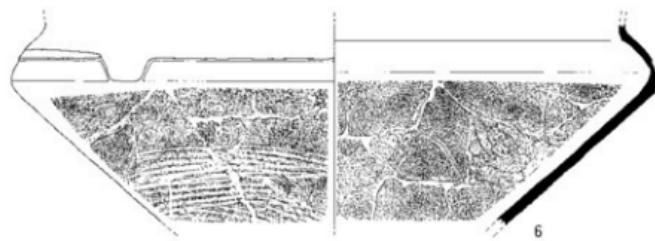
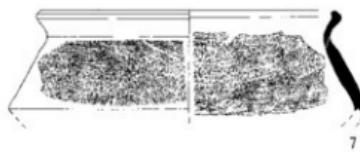


Fig. 17 繩文前期土器(1・2), 繩文後期土器(3・4・5)

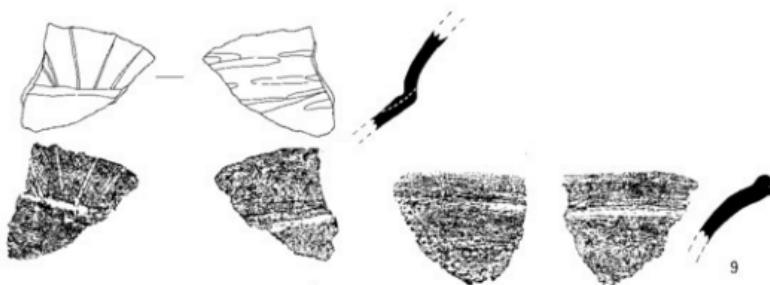


6



7

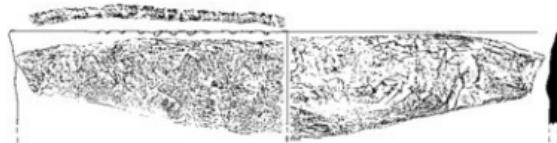
0 10 20 30cm



8

9

0 5 10cm



10

0 10 20 30cm

Fig. 18 繩文晩期土器 浅鉢 A～D (6・7・8・9), 深鉢 I 類(10)

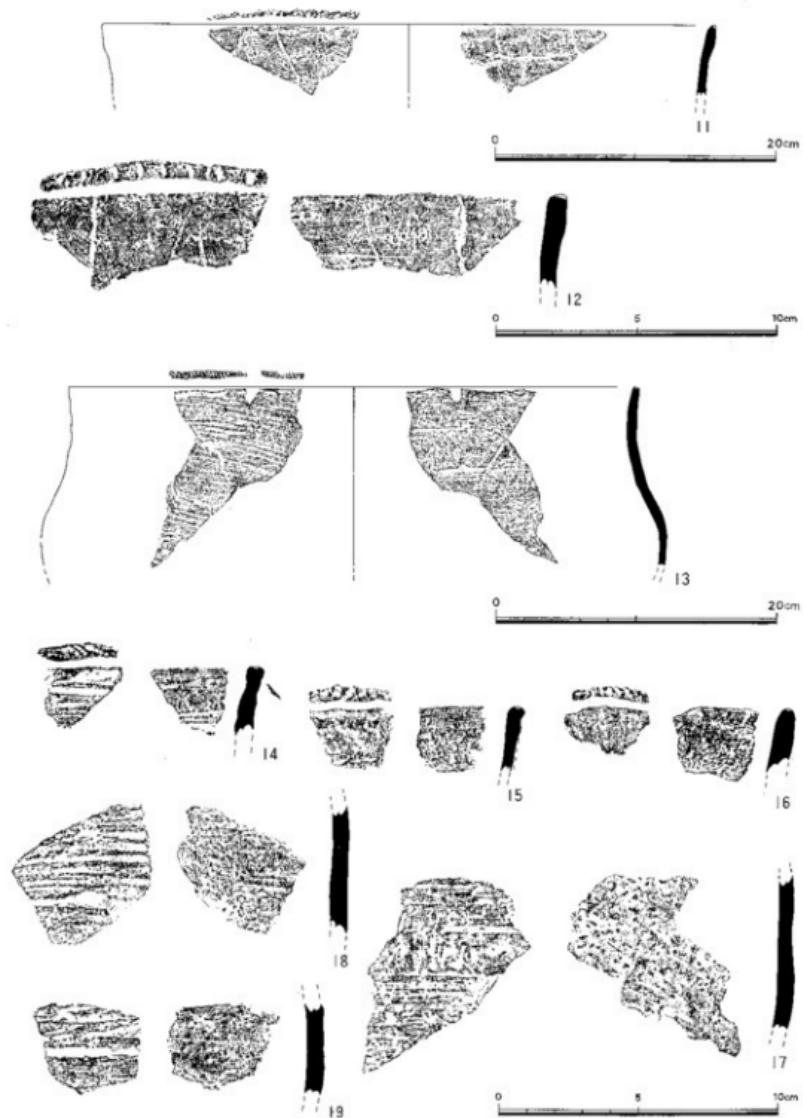


Fig. 19 繩文晚期土器 深鉢 I 類(11・12), 深鉢 II 類(13・14・15・16)  
縩文晚期土器(17・18・19)

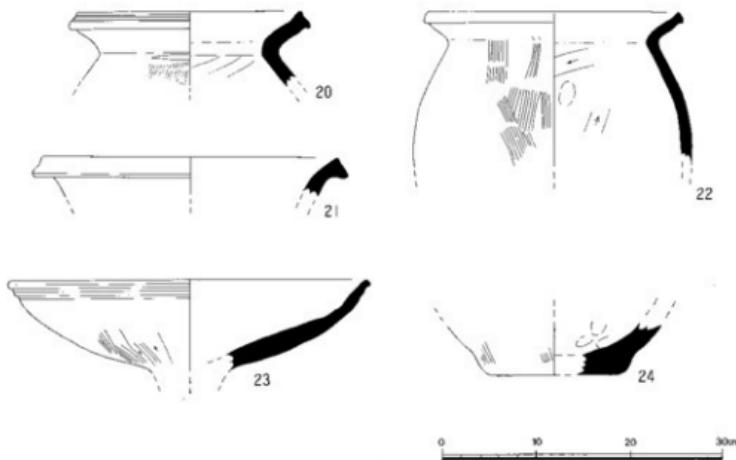


Fig. 20 弥生土器 瓢(20・21・22), 高杯(23), 壺(24)

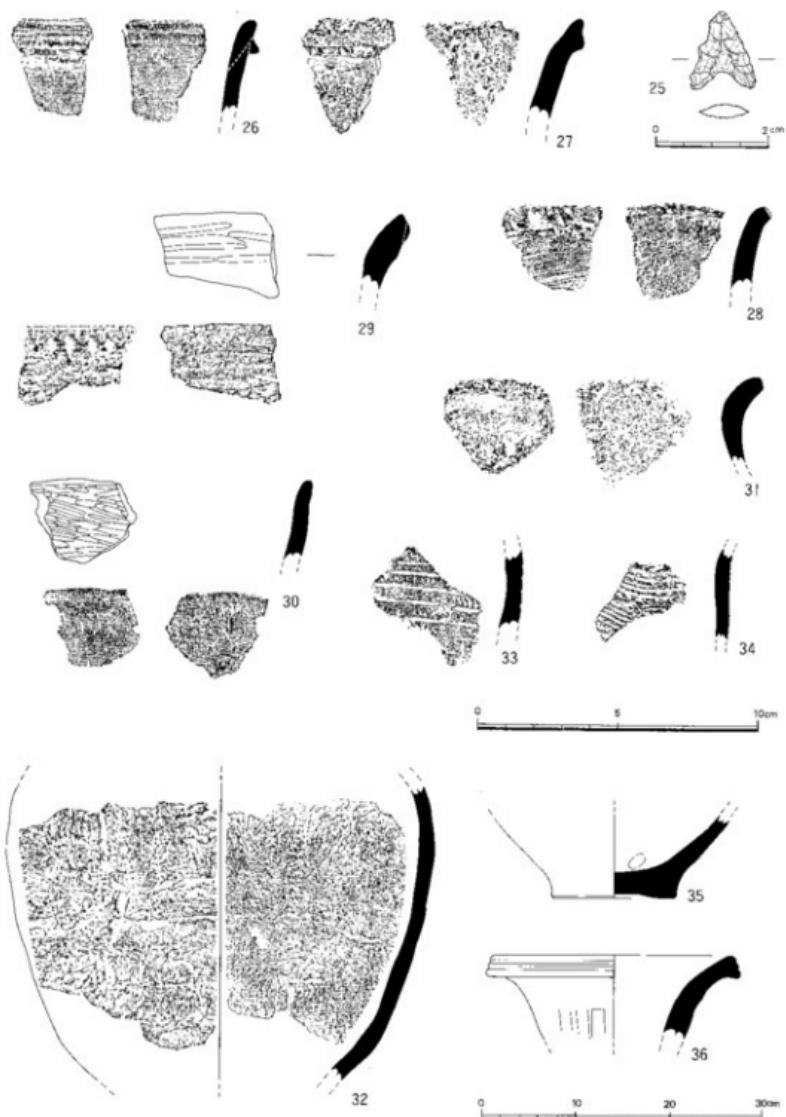


Fig. 21 石鏃(25), 縄文晚期土器(26・27・28・29・30・31・32), 弥生土器(35・36)

| 件番号 | 遺構番号   | 器種      | 法量<br>(cm)<br>容積       | 口縁<br>高さ<br>肉厚                                | 色調・胎土                          | 特徴  | 備考  |
|-----|--------|---------|------------------------|---|--------------------------------|---|-----|
| 1   | P 8    | 陶文土器    | —                      | 内面<br>(2.8)<br>外縁<br>細砂多                      | に赤い黄褐色<br>H                    | 口縁部のみ残存。<br>外縁に微隆起部を貼付して、その間にヘラ状原体で剣目を施す。   |     |
| 2   | H      | #       | —                      | 内面<br>(3.2)                                   | 青褐色<br>に赤い黄褐色<br>細砂・粗砂・長石      | 口縁部のみ残存。<br>外縁にヘラ状原体で溶接の小さくて深い剣目を施す。  |     |
| 3   | H      | #<br>鉢  | 17.2<br>(19.0)         | 内面<br>(17.2)<br>外縁<br>1~4 mmの砂粒多<br>チャート      | 暗灰黄色<br>H                      | 沈縫山4 mm。左に突出する長円形の区画文を内<br>外縁に立ち上がるる口縁外側に深く施す。  | 保付有 |
| 4   | H      | #<br>深鉢 | 26.1<br>(21.5)<br>30.0 | 内面<br>(26.1)<br>外縁<br>チャートの粗粒砂多く含む            | 赤褐色<br>H                       | 沈縫山4 mm。内側する個所から口縁部にかけて<br>内部の砂組み(4厚位?)を外側の丸線が囲む様<br>に施す。外縁ナデ、内面は擦痕のように青いナゲを行なう。  | 保付有 |
| 5   | P 11   | #       | —                      | 内面<br>(3.3)                                   | に赤い<br>外縁<br>に赤い黄褐色<br>砂粒、チャート | 体部外である。<br>施用部位R Lを施す。  |     |
| 6   | P 9    | #<br>浅鉢 | 18.8<br>35.0           | 内面<br>(18.8)<br>外縁<br>に赤い黄褐色<br>チャート、長石の細~粗砂多 | 灰黃褐色<br>H                      | 口縁部より脇の外方に直線的に立ち上がり、上斜<br>部で強く内側に傾曲し、上斜面最大はよりやや上方<br>部が見られる。それが一部とされる所があり、横<br>縫合部の外側に丁寧なヘラ状原体で剣目を施す。頭<br>部が行われて頭部半径15 mmである。 | 保付有 |
| 7   | H<br>H | 浅鉢      | 15.6<br>(5.6)<br>19.4  | 内面<br>(15.6)<br>外縁<br>細砂、長石                   | 黒褐色<br>H                       | 口縁部より脇外方に直線的に立ち上がり上斜部<br>より反転し脇から垂れる。口縁部はやや丸く膨張<br>する。全体的に刷毛気味であるが、へら書きが見<br>らる。  |     |
| 8   | H      | #<br>浅鉢 | —                      | 内面<br>(3.6)<br>外縁<br>細砂、粗砂、チャート、長石            | 黒褐色<br>H                       | 体部外である。下脚部より斜め外方に直線的に立<br>ち上がり上斜部で屈曲していく。斜部より上部に屈かたる様ががち施されている。<br>内面ヘラ書き。  | 保付有 |
| 9   | H      | #<br>浅鉢 | —                      | 内面<br>(2.50)                                  | 灰黃褐色<br>H                      | 口縁部である。<br>やや外反し、口縁部は内側に丸く膨厚する。内<br>外縁共に横方向にヘラ書きを行う。  |     |
| 10  | H      | #<br>深鉢 | 35.0<br>(5.6)          | 内面<br>外縁<br>H<br>0.5~4 mmの砂粒、長石<br>チャート       | に赤い<br>H                       | ほぼ直線的に立ち上がる口縁部であり、端部は腹<br>どりがなされヘラ状原体で剣目を施す。(R方向)   |     |
| 11  | H      | #<br>深鉢 | 44.0<br>(5.0)          | 内面<br>外縁<br>H<br>0.5~2 mmの砂粒                  | に赤い<br>H                       | 口縁部である。<br>内面は脱系板の後ナデ。外縁脱系板を施す。<br>口縁端部はやや丸みをもたせヘラ状原体で剣目を<br>施す。(L方向)   |     |
| 12  | H      | #<br>深鉢 | —                      | 内面<br>(3.4)                                   | に赤い<br>H                       | 口縁部である。<br>内面端共にナデしている。口縁端部はヘラ状原体で<br>剣目を施す。  |     |
| 13  | H      | #<br>深鉢 | 41.0<br>(12.7)         | 内面<br>外縁<br>H<br>4~5 mmの砂粒多<br>チャート           | に赤い<br>H                       | 頭部大径から内側へゆるくカーブしながら上<br>斜部立ち上がる。内外両面に施す。特に外側<br>には施す。口縁端部は頭どりがなされ、其<br>頭部端部によく剣目を施す。(R方向)                                     |     |
| 14  | H      | #<br>深鉢 | —                      | 内面<br>(2.5)                                   | 青褐色<br>H                       | 口縁部である。<br>内面共に脱系板を施すが外側は単位が大きい。<br>口縁端部は脱系板による剣目を密に施す。(R方<br>向)  |     |
| 15  | H      | #<br>深鉢 | —                      | 内面<br>(2.3)                                   | 灰褐色<br>H<br>細砂、粗砂、長石           | 口縁部である。<br>脱系板の土器であり、内面は横方向にナデしている。<br>口縁端部に脱系板による剣目を密に施す。(R方<br>向)   |     |
| 16  | H      | #<br>深鉢 | —                      | 内面<br>(2.3)                                   | に赤い<br>H<br>細砂、粗砂              | 口縁部である。<br>脱系板の土器であり、内面は横方向にナデしている。<br>口縁端部に脱系板による剣目を密に施す。(L方<br>向)   |     |
| 17  | P 1    | #       | (5.4)                  | 内面<br>外縁<br>H<br>1~4 mmの砂粒多<br>長石、チャート        | 黒褐色<br>H                       | 体部である。<br>内面端共に脱系板を施すが、内面は頭著に見ら<br>れない。   |     |
| 18  | H      | #       | (4.6)                  | 内面<br>外縁<br>H<br>0.5~2 mmの砂粒<br>長石、チャート       | に赤い<br>H<br>1~4 mmの砂粒          | 体部である。<br>内面端共に脱系板を施すが、内面は頭著に見ら<br>れない。   |     |
| 19  | H      | #       | (3.2)                  | 内面<br>外縁<br>H<br>1~4 mmの砂粒                    | 青褐色<br>H<br>1~4 mmの砂粒          | 体部である。<br>しっかりとした脱系板は認められず、擦痕が見<br>られる。   |     |

Tab. 3 遺物観察表 1

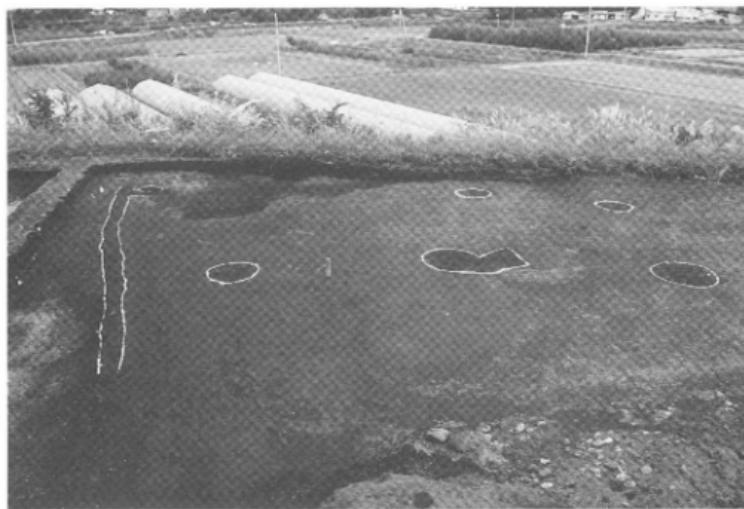
| 標本番号 | 遺物番号 | 基種         | 法長<br>(cm)              | 口径<br>深さ<br>周径<br>底径   | 色調・紹土   | 特徴      | 備考 |
|------|------|------------|-------------------------|--|---|---------|----|
| 20   | P 2  | 你生土器<br>甕  | 12.0<br>(4.0)           | 内面 棕色<br>外面 #<br>細砂粒を含む  | 「く」の字形に外反する口縁部で、内面はしっかりとした焼をなす。口部には2本の凹線が施されている。口縁部は内面と外面共にナメ同様、口端部下より内面はへた開き、外面は縦方向にハク調整を行う。                         |         |    |
| 21   | #    | #<br>甕     | 16.0<br>(2.0)<br>—<br>— | 内面 に bei 黄褐色<br>外面 #<br>0.5~3 mm の砂粒                               | 外反した口縁部である。内面裏共に縦方向へのナメ調整。「密接は縦方向への強いナメによる凹状をなす。  |         |    |
| 22   | #    | #<br>甕     | 13.6<br>(8.3)<br>—<br>— | 内面 に bei 棕色<br>外面 #<br>0.5~4 mm の砂粒を含む。                            | 手割目よりもやかに口縁部にカーブをしながら立ち上がり、内面裏共にナメ調整がなされている。内面はへた開き、外側から左へ縦方向の長いへた開きがあり、口縁部下から右へ縦方向に強めのナメ削りを行なう。外面は口縁部より縦方向にハク調整を行なう。 |         |    |
| 23   | #    | #<br>高杯    | 19.0<br>(5.0)<br>—<br>— | 内面 棕色<br>外面 #<br>0.5~3 mm の砂粒を含む<br>焼不眞                            | 浅い形状をなす。口縁部内面に2条の凹線が施され、中網部より下方に内縫方向にハク調整を行う。   |         |    |
| 24   | #    | #<br>甕     | —<br>(2.7)<br>—<br>7.9  | 内面 棕色<br>外面 に bei 黄褐色<br>0.5~3 mm の砂粒を含む                           | 底端丸である。口縁部外縁部は丸みをもち、外方へ立ち上がり、内面ナメ調整、削面直進を施す。外縫方向にハク調整を行う。   |         |    |
| 26   | 第三層  | 織文土器<br>深鉢 | —<br>(3.4)              | 内面 に bei 棕色<br>外面 に bei 棕色<br>0.5~2 mm の砂粒<br>チャート、瓦片他             | 口縁部片のみ残存。<br>口縁部は丸みをもつて、それよりやや下方に二角形の突起を施す。内面裏共に「事なへ」削ぎを行う。   |         |    |
| 27   | #    | #<br>深鉢    | (3.6)                   | 内面 明黄褐色<br>外面 #<br>0.5~2 mm の砂粒<br>チャート多い。                         | 口縁部片のみ残存。<br>施された突起が少しあげており、削目の存在は確認できない。   |         |    |
| 28   | #    | #<br>深鉢    | (2.9)                   | 内面 に bei 黄褐色<br>外面 に bei 黄褐色<br>0.5~3 mm の砂粒<br>チャート、砾石            | 口縁部片のみ残存。<br>外反底部に立ち上がり、口縁部は肥厚する。口縁部にヘタ状跡体で削目を施す。   |         |    |
| 29   | #    | #<br>深鉢    | (2.7)                   | 内面 黄褐色<br>外面 に bei 黄褐色<br>0.5~2 mm の砂粒                             | 口縁部片のみ残存。<br>口縁部はしっかりとした凹をなし、下端に高い肩部を残す。内面及び口縁部はへた開きを行う。  |         |    |
| 30   | #    | #<br>深鉢    | (2.6)                   | 内面 灰褐色<br>外面 海灰色<br>細砂粒多   | 口縁部片のみ残存。<br>外縫にへた開きを行う。  |         |    |
| 31   | #    | #<br>甕     | (3.6)                   | 内面 棕褐色<br>外面 に bei 黄褐色<br>0.5~2 mm の砂粒多<br>瓦片、石英質骨片を多く含む<br>チャートなし | 口縁部片のみ残存。<br>強く外反する。  | 搬入品。    |    |
| 32   | #    | #<br>深鉢    | (16.0)<br>11.6          | 内面 明灰褐色<br>外面 深褐色<br>0.5~4 mm の砂粒多<br>チャート、砾石                      | 非常にかな丸みをおびた腹窓である。<br>内外面共非常に粗面なつくりである。  | 保有者が認めた |    |
| 33   | #    | 你生土器<br>甕  | (2.9)                   | 内面 深褐色<br>1~4 mm の砂粒<br>チャート                                       | 口縁部片のみ残存。<br>丁度均一なへた開きが確認でき、1条目~5条目の間に<br>はへた状跡体による断点を残す。   |         |    |
| 34   | #    | #          | (3.2)                   | 内面 深褐色<br>外面 棕色<br>0.5~2 mm の砂粒                                    | 全体部である。<br>半径の縮かいるほどなる縮詰き腹状を残す。   |         |    |
| 35   | #    | #          | (4.5)<br>6.6            | 内面 に bei 棕色<br>外面 黒褐色<br>0.5~1 mm の砂粒                              | 平底の底部である。<br>内縫裏共にナメ調整を行う。内面下方には指圧压痕が残る。  |         |    |
| 36   | #    | #<br>甕     | 12.8<br>(4.6)           | 内面 棕色<br>外面 #<br>0.5~2 mm の砂粒                                      | ゆるやかに外反した口縁部に2条の凹線を施す。<br>削目がよい。  |         |    |

Tab. 4 遺物観察表 2

# 図 版



第 I 調査区 調査前風景（西より）



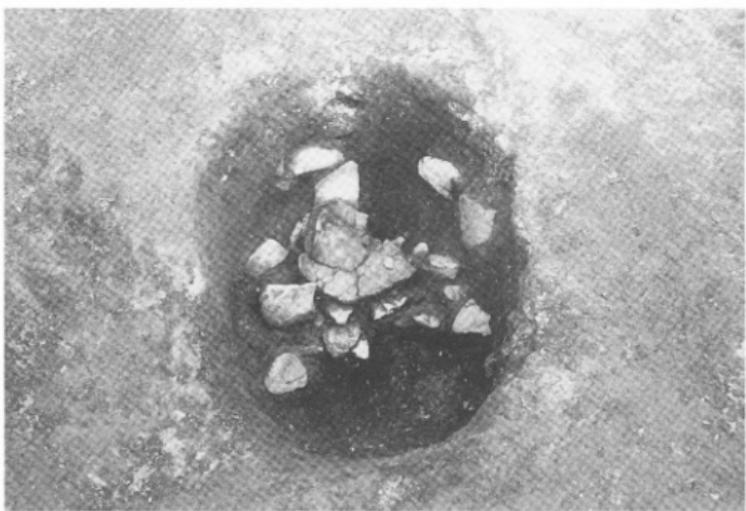
第 I 調査区 東半部遺構検出状況（南より）



第Ⅰ調査区 遺構検出状況（東より）



P 2 遺物（弥生後期土器）出土状況



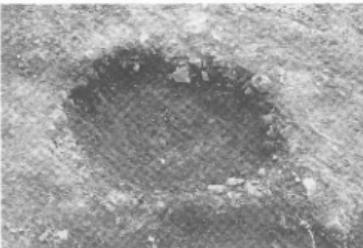
P 8 遺物（縄文後期土器）出土状況



同 上



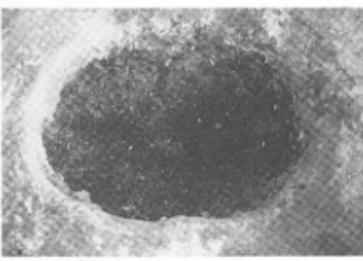
P 1 遺物出土狀況



P 1 完掘



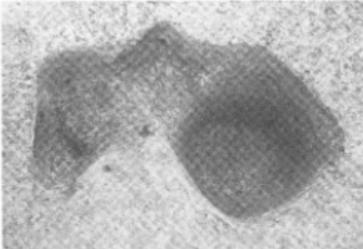
P 2 完掘



P 8 完掘



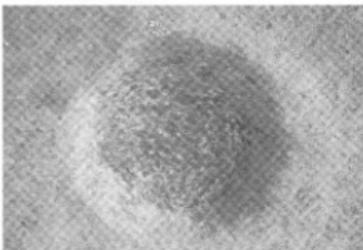
SK 1 遺物出土狀況



P 10 + SK 2 完掘



P 9 遺物出土狀況



P 9 完掘



第 I 調査区 東半部完掘状況（南西より）



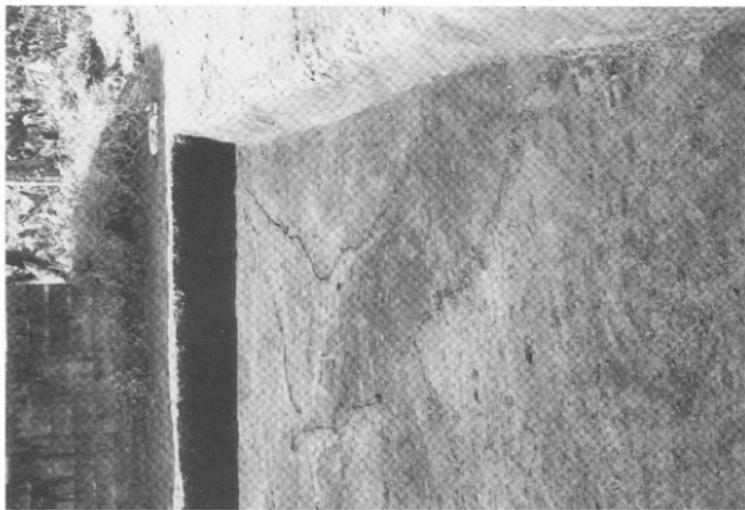
第 I 調査区 完掘状況（東より）



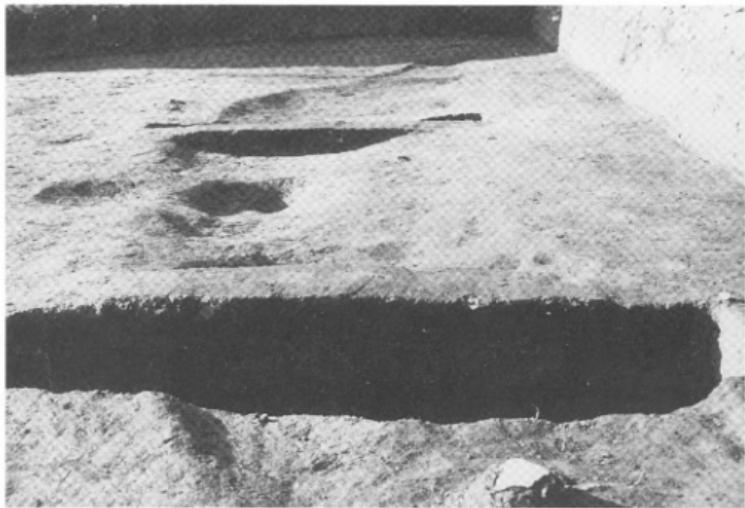
第II調査区 調査前風景（北より）



第II調査区 中央バンクセクション（北より）



S D 2 検出状況（東より）



S D 2 セクション及び遺物（弥生土器）出土状況



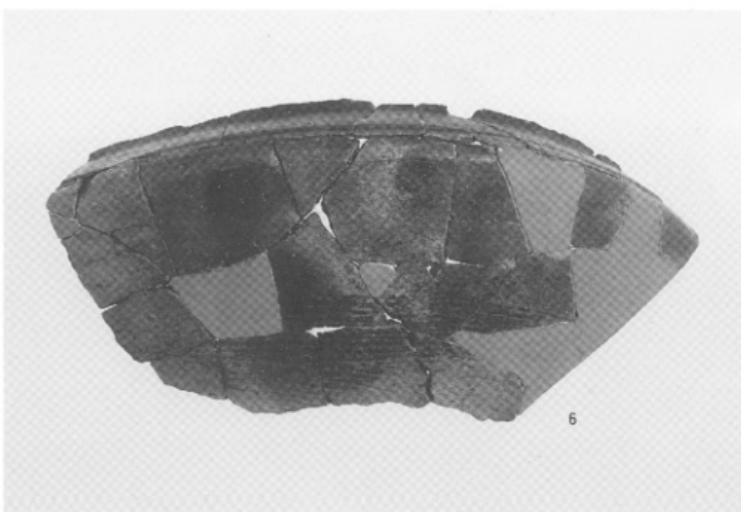
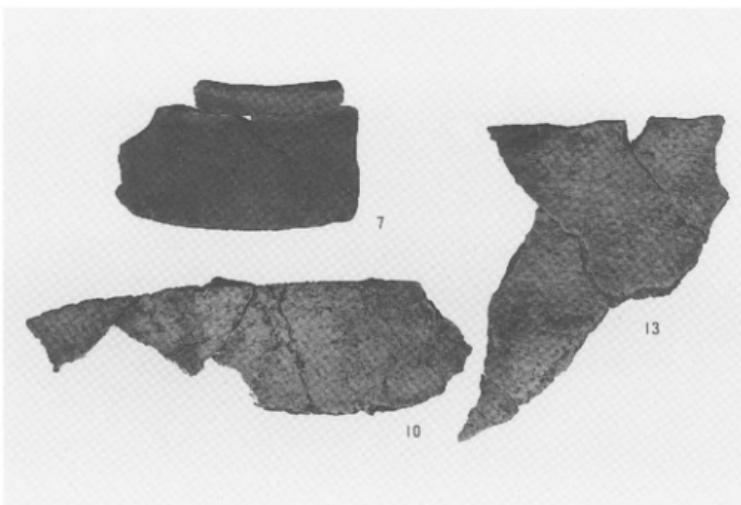
遺物（縄文晩期土器）出土状況（西より）



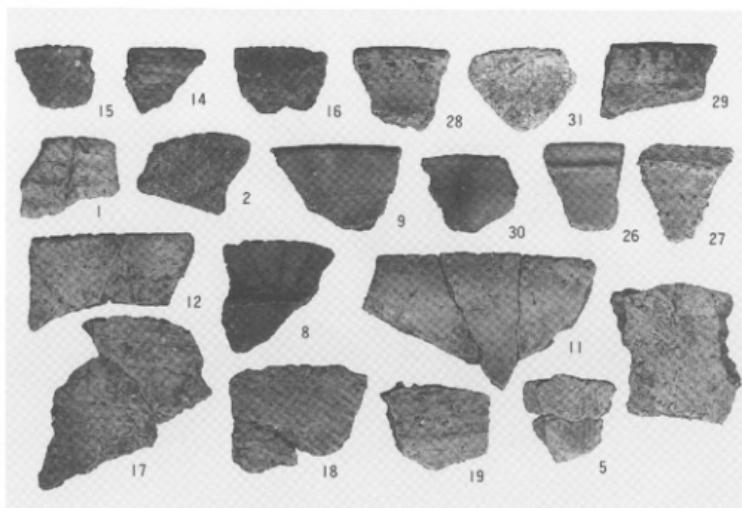
第II調査区 完掘状況（北西より）



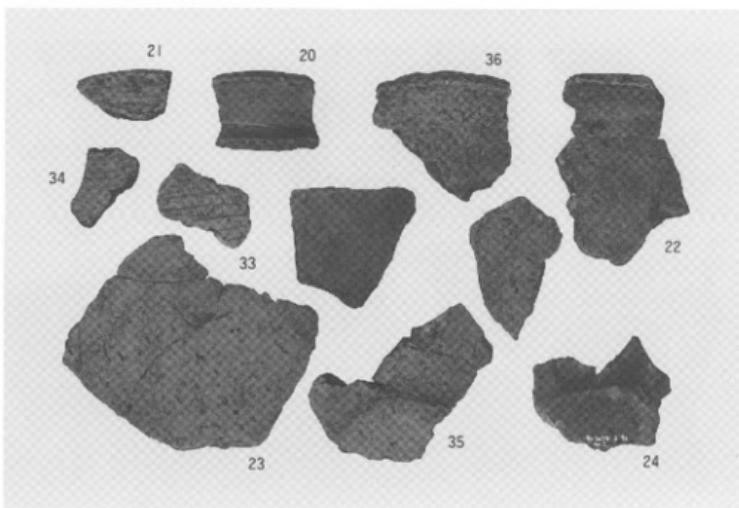
出土遺物 1 (縄文後期土器)



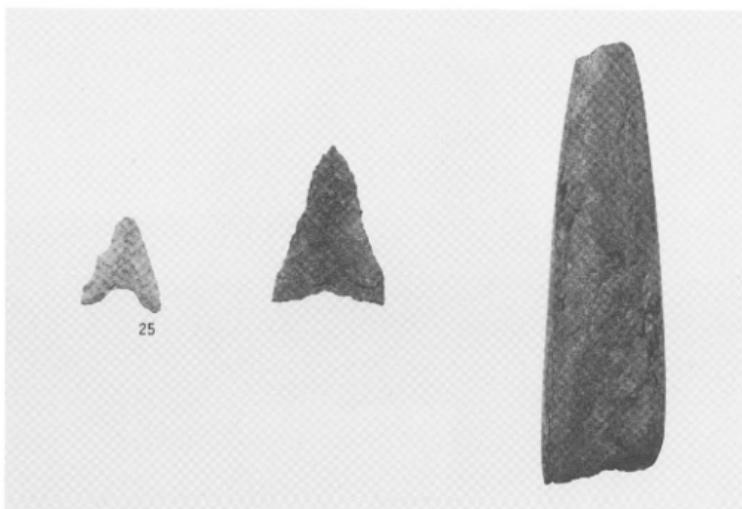
出土遺物 2 (縄文晚期土器)



出土遺物 3 (縄文前期・後期・晩期土器)



出土遺物 4 (弥生前期・中期・後期土器)



出土遺物 5 (石鏃)

土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第15集

**林田シタノヂ遺跡II**

1993

発行 土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町宝町1-2-1

Tel. 08875-3-3111

印刷 共和印刷株式会社